

## 研修体制の充実に向けて

茨城県地域医療支援センターでは、若手医師の皆さんのキャリアアップを支援するため県内医療機関等と連携し、様々な医療技術研修会を実施しています。今年度は新たに「PTLS講習会」、「JMECC講習会」を開催しました。

### 第6回茨城PTLS講習会

救急搬送され一刻を争う患者さんは初期診療で救命率が違ってきます。外傷初期診療の実践的スキルが学べるPTLS講習会は第1回から5回まで県立中央病院の関先生が中心となって実施してきましたが、本年度から茨城県地域医療支援センターがこれを引き継ぎ6月22日に「第6回茨城PTLS講習会」を開催いたしました。

“Primary-care Trauma Life Support-元気になる外傷ケア”「医師コース」「看護師コース」とも聖マリアンナ医科大学救急医学教室教授の箕輪先生をはじめとする県内外の救急医療のエキスパートの講師陣から直接指導が受けられました。救急隊員が救急搬送する実際の事故さながらの講習に、受講者の皆様から「講師陣が豊富で熱意があり最高のコースでした。」「とてもためになり今後活用できるものでした。」「勤務先の病院の医師・看護師にお勧めしたい。」等のお声を頂きました。これからも多くの方に受講していただき、茨城県の救急医療を支える医療従事者として、たくさんの命を救っていただきたいと思います。

(次回開催日は2014年6月21日)



### JMECC講習会

茨城県地域医療支援センターが実施する医療技術研修会の一環として、株式会社日立製作所日立総合病院の藤田先生をはじめとするインストラクターの方々のご協力のもと、7月27日にJMECC講習会を開催しました。JMECCとは、内科医が、心停止のみならず緊急を要する急病患者に対応できるように、日本内科学会が各ガイドラインに基づいて推奨している救急蘇生講習会です。今回は、指導医向けコースで、定員の12名が参加しました。2014年1月25日には研修医向けのコースを開催いたしますので、ご参加をお待ちしております。



#### <受講者より>

- ・役立ち、かつ楽しい内容であり、非常に有意義で愉快的1日となりました。
- ・呼吸器、血液、総合診療、循環器など異なる専門医が参集したので勉強になりました。
- ・他科の先生のお話が聞けて面白かったです。

## 『総合診療を学ぶ特訓ゼミ』のお知らせ

### 第2 シリーズ

期日／平成25年11月2日（土）～3日（日）  
場所／茨城県教育研修センター  
対象／若手医師・医学生150名（全国公募）

### 第3 シリーズ

期日／平成26年2月15日（土）～16日（日）  
場所／茨城県教育研修センター  
※16日は総合診療医のあり方を考えるシンポジウムに参加  
対象／医学生120名（全国公募）

お申し込みはこちらから <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/wakateishi/seminar.html>

# 「医療人は患者のために存在します。医師が必要とされる地域に来て欲しいし、地域にはやりがいがあります 病院長からのメッセージ

伊東紘一院長は、県北地域の拠点病院である常陸大宮済生会病院の立ち上げから運営に尽力されてきました。本年9月末日で退任される伊東先生に、今日までの同病院の歩み、そしてこれからの地域医療についてお話をうかがいました。

## ●常陸大宮済生会病院は、地域の安心と活性化を担う病院。

### …医師不足の地域で、病院を始められて感じたことは？

立ち上げにも苦労しましたし、立ち上げた後も苦労はずっと続いています。楽しいですよ。感じたことはいっぱいあって、3日ぐらいかかっても話さきれない(笑)。平成16年に準備段階で常陸大宮に来て、茨城で一番医療過疎のところ、生計困難者が多いところだと聞きました。そういうところだからこそ、医療についてもなんとかしてあげなくてはいけないと思いました。

常陸大宮には、それまで公立病院がありませんでした。市が病院をつくりたいと、済生会に頼んだのです。済生会は皇室がつくられた組織で、医療に恵まれない人を助けるために病院を運営しています。では医師の配置はどうするかということになり、橋本知事が自治医科大に医師の派遣を依頼しました。自治医科大は、へき地の医療を担う医師を育てて地域へ送ることを目的にしていますからね。済生会も自治医科大も、こんなところがあるならやらなくてはならないということで、目的を一つに平成18年に病院を開設し、現在は公立病院的役割を果たしています。

社会福祉法人 恩賜財団 済生会常陸大宮済生会病院  
院長 伊東 紘一 自治医科大学医学部・名誉教授



### …印象に残る出来事は？

いっぱいありますね。具体的に病院としてスタートしてからは、医学書院がこの病院を取材し「常陸大宮済生会病院は地域の安心と活性化を担う病院である」と記事を掲載してくれました。私たちが望むことを、言ってくれたと思いました。病院ができることと安心ということはもちろんですが、そこで働く人ができるから経済的にも活性化します。それから、母子手帳の国際会議が東京であったときには、30数カ国の人が集まったのですが、この病院の小児科部長の熊谷先生に話を聞きにきました。なぜかという、常陸大宮市の母子手帳は日本で一番いいと言われているからです。皆さん知らないでしょう、こんな片田舎の母子手帳が一番だなんて。片田舎から世界一や日本一ができたりする、世の中を変えるのは田舎からなのです。

## ●一人ひとりが日本一を目指そう。

### …常陸大宮済生会病院の課題と今後の展望は？

この病院を始める時に126人が集まったのですが、最初に言ったことは、「一人ひとりが何でもいいから自分の得意な分野で日本一をつくらう」ということです。そうしたら、126の日本一ができますからね。まだまだ良くしていきたいから、それを継続していかなくてはならない。そして、医師が現在15人ほどなので、まだまだ足りない。25人いれば、余裕を持っていろいろなことに応えられるので、自治医科大からもっと派遣してもらえるように要請しています。茨城県からは、美和診療所に自治医科大を卒業した医師を必ず一人派遣してもらっています。それは必ず継続していかなくてはならないことです。中核病院と診療所が連携して地域医療に取り組む一つのモデルでもあるし、山間部の診療所での勤務は若い医師に自覚が生まれます。看護師についても現在は7対1看護をしていますが、安定して余裕が持てるように看護師をさらに確保したいし、コメディカルも増やしたい。医療のわかる事務職員も必要ですが、まだまだ時間がかかります。

また、うちの病院の医師は、田舎だけど研究発表をし、論文を書いたりしています。そういうことも継続していかなくてはならないですね。現在、常陸大宮をフィールドにして、小児の頭痛やマイコプラズマ肺炎の研究をしている医師がいます。それがひとつのやりがいになり、この病院で一生懸命やろうという気になる。そういうところも高めていかなくてはならないです。

## ●医療は患者さんのために存在する。

### 一番大変な地域を、一番良い地域にしよう。

### …医学生や若手医師へメッセージを。

この地域に限って言えば、医療に恵まれない大変な思いをしている人たちがいます。医療人というのは何なのか、医師にしても看護師にしても事務職員にしても、何のために存在するのかということ、患者さんのために存在します。だから、こういう必要とされる地域にこそ来て欲しい。医療の本質は困った人を助けることです。自分たちがそうしなければならない。研究もやる気があれば、むしろ地方にもよい点があります。実際にこの病院で、世界でも4~5人ぐらいいない珍しい症例が見つかりもしていますから、都会がいいというものもなく、いろいろな研究テーマがあるからやりがいもあると思います。

みんなが困った人を助けることを目指せば、良い病院、良い地域ができ、活性化ができます。そういうことに貢献できるということで、若い医師が来てくれるといい。常陸大宮・県北西部は茨城で一番大変だと言われますが、それを逆に一番良くしようと思う人材を求めています。

この病院が日本で一番の見本になるといいし、いろいろな面でモデルにしたいと思っていますから、私は退任後も関わっていきます。常陸大宮だけでなく、日本中が幸せになるためにこの病院の形を広めていかなくてはならないですからね。やりがいがあるので、ぜひ一緒に頑張る人材に来て欲しいと思います。

## 病院紹介コーナー

### 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

茨城県唯一の「県立の総合病院」という立場から、多くの患者さんを分け隔てなく受け入れることを目指しています。「がん」「救急」「災害」という三本柱を軸にして、茨城県民全体に対して貢献することが常に求められており、非常にやりがいのある職場です。特に救急に関しては、ICU 6床、CCU 6床、オーバーナイトベッド10床を備えた救急・循環器センターや敷地内ヘリポートを有し、常駐するスタッフ、研修医が力を合わせて、24時間365日、県内有数の救急搬送患者を受け入れており、研修医の皆さんは、多くの経験を積むことができます。

2010年10月には、筑波大学附属病院 地域医療教育センターが設置され、筑波大学との強力な連携のもと、医学



教育にも精力的に取り組んでいます。臨床研修制度が開始される以前から現在に至るまで、東京大学、筑波大学、自治医大等を卒業した多くの医師が当院で研修を行っており、教育は当院の文化として根付いています。また、小学生やその保護者が医療を体験できる「キッズくらぶ インホスピタル」を初期研修医の先生が中心となって毎年開催しており、将来を担う子どもたちに、医療について知ってもらう機会としています。(総合診療科 関 義元)

## Relay Essay 研修医リレーエッセイ

牛久愛和総合病院  
初期臨床研修医 小松原 勇太



牛久愛和総合病院で研修を始めて1年半が経過しました。当院のいいところは、科の隔たりがなく、多くの疾患をいろんな角度から勉強できる場所だと思います。毎週金曜日には内科の先生方が集まって合同カンファレンスがあり、研修医が担当している症例に対し、多くのアドバイスを頂くことができます。経験豊富な上級医に、ガイドラインやエビデンスに沿った治療法を教示していただくと大変勉強になります。

また、研修プログラムをオーダーメイド的に組めるのも当院の強みです。私は手術に興味があったため、1年目は外科と麻酔科と泌尿器科を合わせて8ヶ月、内科を4ヶ月まわりました。1年目で執刀医として6例、助手としても多くのオペを経験させていただきました。2年目は東京女子医大東医療センターで3次救急を学びに行くことができ、手技に自信をつけることができました。

研修生活も残り半年となりましたが、医師としてどの科にいても一人前に診療できるように今後も全力で取り組んでいきたいと思っています。医学生の皆さんが研修先として当院を選び、共に働ける日を心よりお待ちしております。

## 修学生サマーセミナー

### 修学生サマーセミナー（低学年その1）

日時／8月8日（木）～8月9日（金）  
 対象／修学生・地域枠学生1～4年生  
 内容／●筑西市アルテリオ「県西地域の概要」  
 ●古河の町並み視察  
 ●友愛記念病院、古河赤十字病院見学  
 ●講演「地域医療の魅力とやりがい」  
 自治医科大学 熊田真樹先生  
 ●茨城西南医療センター病院見学  
 ●県立自然博物館見学 ●交流会  
 ●宿泊 ビアスパーク下妻

#### 参加者の声

- 将来働くかもしれないところを見学して、地域で働くというイメージが持てた。
- 地域医療では十分な経験をつめないと思っていたが、全く逆だということが分かった。
- 医師の方とあらゆる話ができた。他大学の学生と交流できてよかった。

### 修学生サマーセミナー（高学年）

日時／8月19日（月）～8月20日（火）  
 対象／修学生・地域枠学生5～6年生  
 内容／●県庁三の丸庁舎  
 「派遣調整ルールとキャリア支援について」  
 ●講演「初期臨床研修医と新専門医制度について」  
 筑波大学附属病院  
 病院教授 瀬尾恵美子先生  
 ●水戸赤十字病院見学 ●交流会  
 ●水戸協同病院見学 ●バーベキュー  
 ●宿泊 水戸市内ホテル

#### 参加者の声

- 各病院の雰囲気の違いが分かった。
- 修学生の6年間でも十分に力をつけることができると思った。
- 医師の方々とお話をさせていただいて将来の姿がイメージしやすくなった。

### 修学生サマーセミナー（低学年その2）

日時／8月20日（火）  
 対象／修学生・地域枠学生1～4年生  
 内容／●県立こども病院見学  
 ●講話「茨城の地域医療と小児医療」  
 県立こども病院 院長 土田昌宏先生  
 ●近代美術館見学  
 「学芸員のお話と企画展」  
 ●交流会

#### 参加者の声

- 茨城のために頑張ろうという気持ちを持てた。
- 小児医療への関心が高まった。
- 交流会で医師の方と話すことができ、学生時代の話や結婚の話聞いて参考になった。



## 地域医療研修会開催

日時／平成25年8月22日(木)～24日(土)  
 対象／医学生  
 内容／●大子町内の医療機関見学  
 ●診察立ち合い、往診同行  
 ●医師との意見交換会、交流会など

#### 参加者の声

- 実際に外来の様子を見たり、訪問看護にも同行することができて、肌で大子町の医療を感じる事ができたのが本当に良かった。
- 地域医療に対する印象が変わった。患者を大切に思い、常に新しいものを取り入れていることを知り、自分が医師になった際に勤務する場所としてとてもよい環境だと思えた。

## 茨城県からのお知らせ

### 茨城県地域枠募集のご案内

将来、知事が指定する医療機関において、医師の業務に従事しようという意思のもと、茨城県地域枠で以下の6つの大学の医学部に入学された方に対して「茨城県地域医療医師修学資金」を貸与します。

#### 受験資格

次のいずれかに該当する者（その他受験資格については各大学のホームページでご確認ください）

- (1) 県内の高等学校等を卒業した者
- (2) 県内に居住する者の子

※平成26年4月に茨城県地域枠入学者として入学した後、修学資金貸与のための契約を締結します。

貸与金額 月額150,000円

#### 貸与人数（地域枠定員）

筑波大学 13名 東京医科大学 8名 東京医科歯科大学 2名  
 杏林大学 2名 日本医科大学 2名 北里大学 2名  
 ※日本医科大学は「地域医療医師修学資金貸与制度枠」として設置しています。

#### 県の面接

#### 筑波大学・東京医科大学

出願期間／平成25年 9月10日（火）から  
 10月 9日（水）まで（当日必着）

面接日／平成25年10月19日（土）または  
 10月20日（日）

#### 東京医科歯科大学・杏林大学・日本医科大学・北里大学

出願期間／平成25年10月15日（火）から  
 11月13日（水）まで（当日必着）

面接日／平成25年11月23日（土）または  
 11月24日（日）

## 茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6（保健福祉部医療対策課内）TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp